

## 平成 27 年度 技術革新による陶磁器新製品開発事業

西川 孝\*, 岡本康男\*, 庄山昌志\*, 新島聖治\*, 真弓 悠\*,  
榎谷幹雄\*\*, 林 茂雄\*\*, 丸林良嗣\*\*

### New Product Development of Pottery by Technological Innovation

Takashi NISHIKAWA, Yasuo OKAMOTO, Masashi SHOYAMA, Seiji NIJIMA,  
Yutaka MAYUMI, Mikio SAKAKIYA, Shigeo HAYASHI and Ryoji MARUBAYASHI

#### 1. はじめに

国内陶磁器産業は、家族形態及びライフスタイルの変化等に伴う需要の減少、海外からの安価な製品の流入等様々な要因により、国内生産量は 1990 年頃からの 25 年間で大きく低下した<sup>1)</sup>。しかし、ここ数年アベノミクスによる景気の持ち直し、為替における円安の進行などの影響もあってか、生産量はほぼ横ばいとなっており、生産額は若干ではあるが上昇している品目もみられる<sup>2)</sup>。また、国内産陶磁器の販路については、従来の陶磁器売り場については縮小していると考えられるが、ネットショップ等新たな形態の販路が出現し、多様化している。これらの時流の変化に合わせてことにより、県内陶磁器事業者にとって、新商品を開発し、市場シェアを拡大する機会が訪れている。

こうしたなか本事業では、顧客が求めている新商品の開発を促進するため、四日市及び伊賀のそれぞれの地域において各事業組合、商工会議所、市町等の陶磁器事業への支援関係者と県関係者との連携会議（図 1）を開催した。なお、同会議による連携は平成 23 年から 26 年度にかけて行った「地域資源を活用した新商品開発事業」<sup>3-6)</sup>から続けており、ここで構築したネットワークを生かして新商品開発の促進に取り組んでいる。さらに、陶磁器関連事業者（以下事業者と表記）に参加を募り、新商品開発研究会（図 2）を開催したのでここに報告する。

\* 窯業研究室

\*\* 窯業研究室伊賀分室



図 1 連携会議



図 2 新商品開発研究会

#### 2. 連絡会議及び連携研究会の開催

表 1 に平成 27 年度に実施した連携会議及び新商品開発研究会の概要を示す。連携会議については四

日市、伊賀の各地区においてそれぞれ 1 回ずつ開催した。同会議では、各支援関係者が支援メニュー等の紹介を行い、それらを有効に活用するための意見交換等を行った。

新商品開発研究会については 3 回開催した。第 1 回においては、講師を招聘して講演会を開催し、第 2 回においては事業者への情報提供及び意見交換を行った。第 3 回においては講師を招聘し、事業者自社商品を持参いただき新商品開発に関する個別検討会を行った。

### 3. 共同研究の実施

平成 27 年度は県内 2 企業との間で共同研究契約を締結し、技術課題の解決及び新商品の開発に取り組んだ。その結果、共同研究から 2 件の試作品を開発することができた。共同研究「低温焼成磁器製品の開発と釉薬の品質向上」による試作品を図 3 に示す。

なお、共同研究の概要については表 2 に示す。



図 3 共同研究試作品

### 4. まとめ

萬古焼、伊賀焼の各担当者が情報交換・意見交換を行い、効果的に連携を図るため、連携会議を四日市、伊賀でそれぞれ 1 回開催した。

連携研究会においては、事業者の自社商品を研究会に持参いただき、講師と事業者による個別検討会を開催した。新商品開発を促進していくために、これまでとは全く異なる形式の研究会を試みることができた。

本事業で形成したネットワークや新商品の開発力を活かし、次年度以降はさらに魅力ある新商品の開発を促進していく予定である。

### 参考文献

- 1) 経済産業省 工業統計表 (1991~2014)
- 2) (一財) 日本陶業連盟 生産統計
- 3) 水野加奈子ほか：“地域資源を活用した新商品開発事業報告 (陶磁器)”。三重県工業研究所年報, 36, p136-138 (2012)
- 4) 林茂雄ほか：“萬古焼ブランド化推進緊急雇用創出事業報告 (第 2 報)”。三重県工業研究所年報, 37, p130-132 (2013)
- 5) 西川孝ほか：“平成 25 年度地域資源を活用した新商品開発事業報告 (陶磁器)”。三重県工業研究所年報, 38, p141-143 (2014)
- 6) 西川孝ほか：“平成 26 年度地域資源を活用した新商品開発事業報告 (陶磁器)”。三重県工業研究所年報, 39, p144-146 (2015)

表 1 連携会議及び新商品開発研究会の概要

日時	内容	場所	参加者数
●萬古焼連携会議			
H27.6.17	1. 参加機関からの萬古焼関連事業（取組）紹介 2. 意見交換 等	窯業研究室	10 機関 13 名
●伊賀焼関係連絡会議			
H27.7.7	1. 参加機関からの伊賀焼関連事業（取組）紹介 2. 意見交換 等	伊賀焼伝統産業会館	10 機関 18 名
●第 1 回新商品開発研究会			
H27.10.21	講演及び意見交換会 「現況マーケティングの変化と陶磁器商品開発の考え方」 オフィスイマダ 代表取締役 今田 功	窯業研究室	21 名
●第 2 回新商品開発研究会			
H27.12.17	1. 技術提供 「統計からみる陶磁器産地状況について」 榑谷幹雄 「ごはん鍋の形状と炊飯時の効果について」 林 茂雄 2. 窯業研究室伊賀分室のシーズ紹介 「強度向上を図った伊賀焼素地用釉薬について」 林 茂雄	伊賀焼伝統産業会館	14 名
●第 3 回新商品開発研究会			
H28.2.15	各社商品の個別検討会 オフィスイマダ 代表取締役 今田 功	窯業研究室	16 名

表 2 共同研究の概要

期間	研究課題	共同研究先
H27.6.23～H28.2.15	四日市萬古焼の IH 対応土瓶と出汁鍋の開発	萬古焼製造業者
H27.8.10～H28.2.29	低温焼成磁器製品の開発と釉薬の品質向上	萬古焼製造業者